

<b>授業科目</b>  在宅看護論実習	<b>区分・教育内容</b>  統合分野 臨地実習		
<b>授業担当者</b>  堀井喜世子	<b>開講時期</b>  前期～中期	<b>単位</b>  2 単位	<b>時間数</b>  90 時間
<b>授業の目的</b> 在宅で生活する療養者とその家族を総合的に理解し、それらの人々が望んでいる生活や生き方ができるような看護を実践できる能力を養う。 <b>授業の目標</b> 1. 施設利用者の特徴を理解する事ができる。 2. 施設利用者への支援ができる。 3. 施設における看護師の役割を理解できる。 4. 在宅看護の対象である療養者とその家族を理解できる。 5. 在宅療養者と家族への援助の実際が理解できる。 6. 在宅における看護師の役割を考えることができる。 7. 看護実践を通じて、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。			
<b>授業概要</b> 本実習は、介護老人保健施設等関連施設（介護老人保健施設游心苑、介護老人福祉施設リンデンバウムいずみ、養護老人ホーム聖徳会のいずれか）、中通訪問看護ステーションで行う。 施設実習では、施設の特徴を学ぶと共に、入所者と併設の通所サービス利用者への関わりを通し、施設で生活している高齢者への支援、施設における看護師の役割について学ぶ。訪問看護ステーション実習では訪問看護師、ケアマネジャーとの同行訪問を通し、地域で暮らす人々の実際を学ぶ。在宅看護の特徴や在宅療養者と家族との関わり方を学び、在宅における看護師の役割と機能を理解する。 実習を通じて、多くの専門職と接する機会がある。多職種とどのように連携・協働を図っているのか、それが何に向かっているのかを考え、看護の専門性とは何かを深めてほしい。 <b>授業計画(進め方)</b> 1. 施設実習では、5 日間で受け持ち入所者の看護過程関連図を作成する。 2. 訪問看護実習では複数の療養者に訪問し、ケースごとの訪問記録をまとめると共に、1 ケースで看護過程を立案まで展開する。 3. 各施設の実習最終日に、施設の特徴や看護の役割についてまとめる。 4. 実習 13 日目の最終日にテーマカンファレンスを行い、看護観を深める。			
<b>テキスト</b> ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 メディカ出版 公衆衛生がみえる 2018-2019 メディックメディア 角田直枝編集 よくわかる在宅看護 学研			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 実習評価表に基づいて実施（施設実習 32%、訪問看護ステーション 48%、共通 20%）			